

## ESDとは何か

阿部 治

## 現代の諸課題

### 国際的課題

環境・開発、資源・エネルギー、人口・食料、  
貧困、人権・ジェンダー、平和、民主主義、他

### 国内的課題

- 少子・高齢化、過疎化、経済格差の拡大、
- 低い食料自給率、高い自殺率、
- 孤立化・関係性の希薄化、自然体験の減少、  
他

このままでは  
「わたし」も「あなた」も、「社会」も  
持続不可能

**持続可能な社会への転換が不可欠**

持続可能な開発  
持続可能性

## 持続可能な開発

持続可能な開発とは、将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズをも満足させるような開発。

(WCED “Our Common Future “1987)

## 「持続可能な開発」(SD)概念

『世界保全戦略』(1980)

『われら共有の未来』(1987)

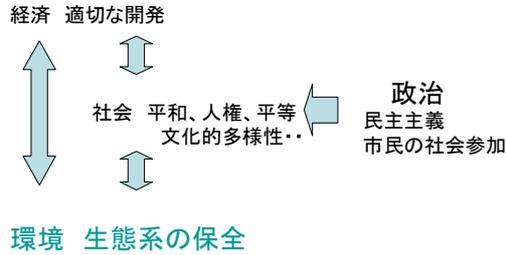
『かけがえのない地球を大切に』(1990)

### SDの3類型

- ①自然条件を重視
- ②世代間の公平性
- ③より高次の観点(社会的正義や生活質)

(森田・川島(1993))

## 持続可能な開発の4つの視点



(阿部、2009)

## 持続可能な開発と日本の責任

「持続可能な開発」を提起したブルントラント委員会は日本提案(1982)

国内外における日本の主導が求められている

## 日本の環境政策の最大の課題

持続可能な社会のビジョンがない  
バックカスティングが必要

## 持続可能な社会のための方策

技術開発  
法制度の整備  
意識改革  
↑  
教育

持続可能な社会づくりには  
意識改革が最重要＝環境教育 /ESD

「人と人」、「人と社会」、「人と自然」とのつながり(関係性)

「つながり(関係性)学習」

持続不能な「つながり」から持続可能な「つながり」へ

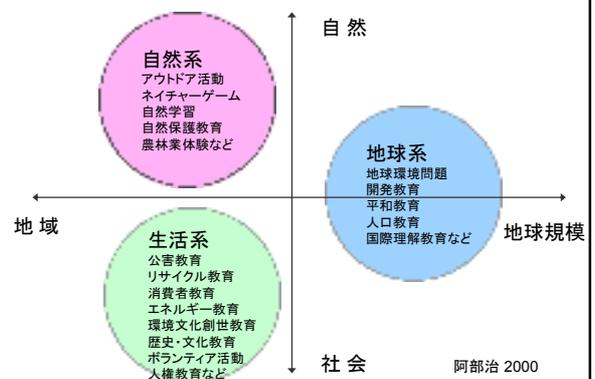
2つのソウゾウリョク(想像力、創造力)の育成

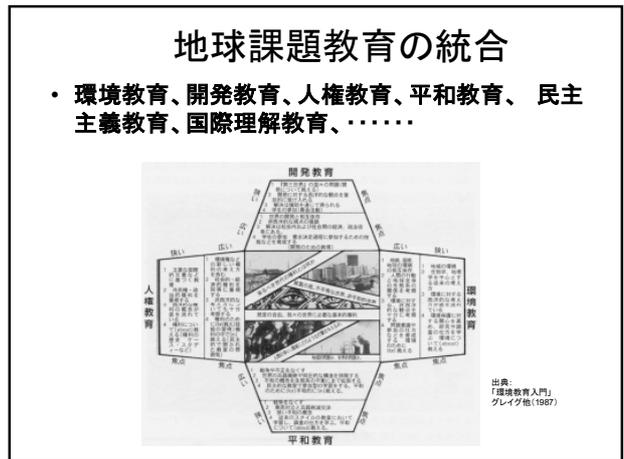
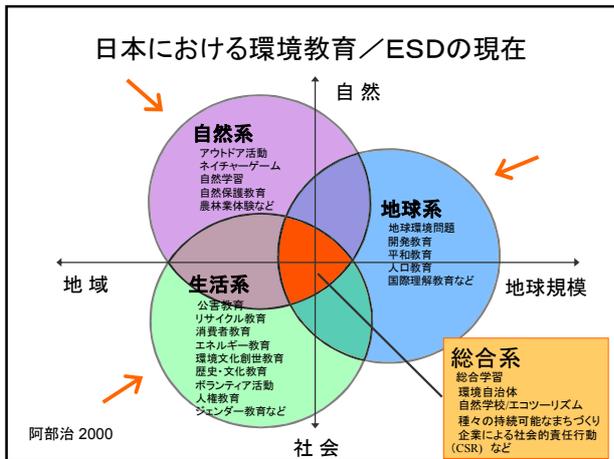
人間力の醸成

つながり(関係性)の意識化が環境教育/ESD

(阿部、2000)

## 日本における環境教育/ESDの範囲(過去)





狭義の環境教育から  
広義の環境教育へ

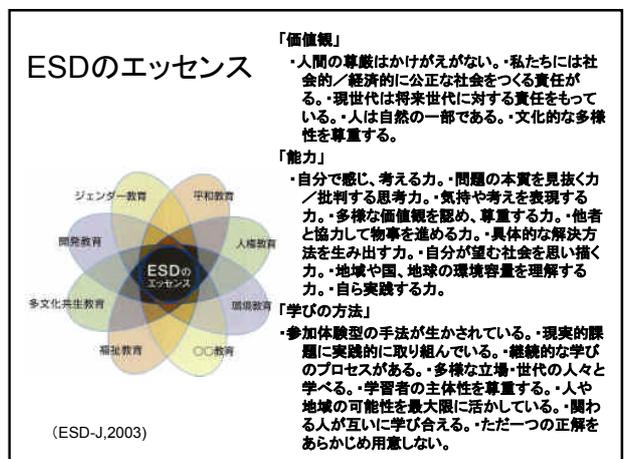
持続可能な開発(社会)のための教育  
の登場

### 持続可能な開発のための教育

- 環境・人口・開発教育
- 持続可能な社会のための教育
- 持続可能性のための教育
- 持続可能な未来のための教育

### ESDとは

- 持続可能な開発の原則、価値観、実践を教育と学習のあらゆる側面に組み込む。
- 「教育」と「持続可能な開発」の二つに由来。  
(国際実施計画、2005)
- 私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要であり、そのための教育がESD  
(国内実施計画、2006)
- 人々が持続可能な社会の構築に主体的に参画することを促すエンパワーメント (阿部)



## 持続可能な開発のための教育

- 1974年 ユネスコ国際教育会議
- 1980年代 地球環境問題の顕在化⇒地球的課題教育の連携
- 1990年 万人のための教育宣言
- 1992年 地球サミット(アジェンダ21)
- 1994年 ユネスコ国際教育宣言
- 1997年 テサロニキ会議(テサロニキ宣言)
- 1998年 国連CSD6で環境教育討議
- 2000年 国連ミレニアム宣言/国連ミレニアム開発目標/ダカール行動枠組み
- 2002年 ヨハネスサミット「教育の10年」提案
- 2002年 国連総会「教育の10年」決議
- 2003年 環境教育推進法/ESD-J設立
- 2005年 国連「教育の10年」開始(～2014年)
- 2005年 ユネスコ国際実施計画策定/関係省庁連絡会議設置
- 2006年 日本政府「国内実施計画」策定
- 2007年 ESD推進協議会設立/21世紀環境立国戦略/教育基本法改正
- 2008年 ESD円卓会議設置/新学習指導要領/教育振興基本計画
- 2009年 「教育の10年」中間会議(ドイツ)
- 2014年 同 最終会合(日本)

## 国内のESD事例

- 新たな活動: 国連大学RCE、環境省ESDモデル事業、文科省教育GP、ユネスコスクールなど
- 従来からの活動: 持続可能な地域づくりにつながる環境教育(霞ヶ浦アサザプロジェクト、豊岡コウノトリの里、水俣市、西宮市、他)

## ESDの展開事例(1) 水俣市

- 水俣病による地域の崩壊
  - 環境・健康・福祉のまちづくり(もやい直し)
  - 地元学による地域の見直し
  - 環境マイスター制度
  - 水俣版環境ISO
  - 教育旅行の誘致
- ⇒学びをベースにした環境・社会・経済の統合  
環境首都水俣の確立

## ESDの展開事例(2)

### アサザプロジェクト/豊岡のコウノトリの復活

- 環境保全と地域経済の活性化
  - 地域内の関係性の再構築
  - 伝統文化の再評価
  - ローカルとグローバルの統合
  - 学校や地域における学びをベースとした持続可能な地域づくり
  - 子どもや大人の社会参加の促進
- ⇒学びをベースにした環境・社会・経済の統合

## 日本のESDの特徴

- DESD以前からESDに位置づけられる活動が展開されている。(総合的学習の時間、地域づくり、など)
- DESDを契機にESDの名の下に持続可能性にかかわる多様なセクター、場が統合した連携がなされている。(ESD-J、政府円卓会議、など)
- DESDを契機に高等教育機関の改革が始まっている。
- 実践面に比べて研究面がまだ活性化されていない。(ESDの評価、など)

## 最終会合に向けて

- 最終会合のイメージの共有(政府会議+民間会議)
- 国内の取り組みの更なる実施と評価
- 日本からの海外発信の強化
- 円卓会議の強化
- UNESCOをはじめとする国際機関などとの連携強化
- アジアにおける日本のイニシアティブの発揮
- オールジャパンによる受け入れ体制づくり
- ロードマップの作成